



2024年度グッドデザイン賞
ポラスグループ全13点が受賞
 22年連続 通算受賞点数96点

ポラスグループ

ポラスグループ(本社:埼玉県越谷市、代表:中内 晃次郎)の各社が開発した以下の13点が、「2024年度グッドデザイン賞」を受賞しました。ポラスグループとしては22年連続の受賞、通算受賞点数は96点となりました。

〈ポラスグループ グッドデザイン賞 詳細ホームページ <https://www.polus.co.jp/articles/www.polus.co.jp/gooddesign/>〉

	<p>奥庭のある分譲住宅 フレーベスト秋津 -OKUNIWA-</p> <p>株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部</p>		<p>地域連携とインテリアの発信モデル アンテナモデル</p> <p>株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部</p>
	<p>人と生き物の居場所を創る分譲住宅 リーズン馬込沢 SuBaCoプロジェクト</p> <p>株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部 株式会社ポラス暮らし科学研究所 住環境G</p>		<p>路地から地域をつなぐ分譲住宅 ベルフォート北本</p> <p>株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部</p>
	<p>水辺景観創造型分譲住宅 東京ストリームサイト</p> <p>株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部</p>		<p>住宅内装用杉パネル材 国産無垢再生パネル</p> <p>株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部</p>
	<p>防災コミュニティタウン 未来輪区 ～共助と共生を育む街～</p> <p>中央グリーン開発株式会社</p>		<p>住人の交流を育む森の小路「ステイパス」 「ステイパス」のある風景</p> <p>中央グリーン開発株式会社</p>
	<p>住宅地のコミュニティ支援 開発する全ての戸建て分譲地・入居者を対象としたコミュニティ支援プログラム</p> <p>中央グリーン開発株式会社</p>		<p>擁壁の立体緑化と交流を生む 「ガーデンテラス」のある街 育実(はぐくみ)の丘大宮</p> <p>ポラスマイホームプラザ株式会社</p>
	<p>一般流通材を利用した、 木造大スパン物流倉庫のモデルプラン 南の台木造倉庫</p> <p>ポラテック株式会社 木造建築事業部 特販部 株式会社ポラス暮らし科学研究所 構造G デザイン要素を統一して雨仕舞を構築 ノイズレスな佇まいを演出する水切り</p>		<p>田の字の規格寸法と「間」のつなぎ方を工夫 令和最小限住宅 4×4「造りすぎない家」</p> <p>ポラテック株式会社 木造建築事業部(POHAUS) 株式会社ポラス暮らし科学研究所 デザインG</p>
	<p>SPDスリム中間水切り</p> <p>株式会社ポラス暮らし科学研究所 デザインG ポラス株式会社 購買部・技術部 株式会社住宅資材センター、株式会社ハウゼコ</p>		

本件に関するお問い合わせ先
 ポラスグループ ポラス株式会社コミュニケーション部 広報課
 TEL:048-989-9151

<概要>

東京都東村山市の小学校にほど近い11棟の分譲住宅です。手前＋旗竿型の敷地が連続する区画ですが、各棟の敷地の奥側の余白を互いに掘出し合うことで、広場・木立・テラスという3種の「奥庭」を形成しています。

3つの奥庭同士を小径で繋ぎ、街区全体を井戸端と路地を包括するシームレスなシェア空間としました。街を貫く共用部が豊かな住環境形成に寄与し、住まい手が庭や緑と関わりながら車の往来を気にせず憩い、日常のコミュニティが醸成されます。また路地や奥庭の周囲にベンチやハーブ、果樹、植生ブロック等を配し、緑化による環境配慮と景観形成を提案しています。都内の限られた敷地を有効に活用する新しいスタイルの街づくりです。



<審査員評価>

分譲住宅という性格上、全体の区画を効率的に割って活用することはもちろんだが、そうした前提の中で、共用部に強く意識が向けられた丁寧な計画である。「奥庭」と名付けられたそれは、さらに「広場」「木立」「テラス」という3種類の公道からの開かれ方および各住宅との接続の仕方をもっており、相互に通行可能であることによって、一体感とリズム感が高まっている。分譲住宅として一体で供給するからこそその美質を備えている。

アンテナモデル

<概要>

地場の建材メーカーや組合と共同開発した桐の住宅意匠建材や、その共材で創った雑貨・家具などを分譲住宅のモデルハウスを利用しトータルに展示することで、インテリアスタイルに留まらず素材の価値や地域連携の活動などを広報する新しい発信の場の提案です。様々なエリアの分譲住宅に展開し広く周知する試みです。

浮造りや多重塗装を施した無垢桐建材「キリノカ」の仕上げを伝統手工芸品である桐箱に転用し「キリハコ」としてリデザイン。その他ツールやテーブルなどの桐製家具「キリプロダクト」や、建築に組み込める造作家具「キリシェルフシリーズ」も制作し、LDK空間を「KIRI-life」としてプロデュースしました。キリハコやキリプロダクトをインテリアとしてコーディネートしつつ製品自体の展示も兼ね、また地域連携の内容を発信する「アンテナモデル」として物件の販売と同時にオープンしました。



<審査員評価>

分譲住宅のモデルハウスに、地域の伝統工芸である桐を加工した建材やプロダクトを使用・展示することで、土地の外部から来ることになる購入者＝新規移住者（いわゆる余所者）と地域文化や社会とを接続し、なおかつ、地域の伝統産業の売り上げを伸ばし、これを持続可能にすることを意図したプロジェクトである。これまでの分譲住宅というものは全住戸売り抜けてしまうこと、つまり「売りっぱなし」の事業であったが、ここでは地縁へとつながる地域の人的広がりや、文化・産業の継続性といった、空間的・時間的境界を越えた取り組みがなされている点で、これまでの建売事業と一線を画している。他の建売事業へも展開してほしい新しく社会的意義の高い手法であり高く評価した。

リーズ馬込沢 SuBaCoプロジェクト

株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部
株式会社ポラス暮らし科学研究所 住環境G

<概要>

住民・市・事業者が協力し、4棟の分譲住宅を人と地域の生き物の居場所となる「SuBaCo」にするコンセプト。広い敷地を楽しむための共有空間、4つの縁側テラスが住人を外へと誘い出し、生物調査を基にした緑化が鳥や蝶を街に呼び込みます。敷地や植栽の一部をシェアすることでシームレスな住民交流を促し、生物多様性の視点も内包した新しいカタチの街づくり提案です。

家の中での暮らしを日常的に外へと誘引するため、地役権を設定したフットパスと広場、縁側テラスを計画。テラスを共有空間に向けて配し、住人それぞれの個性的な活動が街へ溢れ出す様な生活景を創造しました。また、地域の鳥や蝶が好む樹種を選定し街を緑化。休息場として各棟にバードバスを配し、建物への影響も含めて緑陰も計画しました。景観だけでなく、地域の生き物のとまり木としてグリーンインフラ形成に貢献する植栽の価値を住人と共有していくため、持続的な緑地管理のサポートも行います。



<審査員評価>

敷地を4宅地に分割し、それぞれに建売住宅を建設する、いわゆる「ミニ開発」のプロジェクトである。これまではそれぞれの「住宅」そのものの価値を追求したものがほとんどであったが、本物件は住戸間に発生する「住民同士の関係性」や、更には地域に複数存在する野山や公園などの緑地から飛来する「鳥の休息地」となるように植栽を施し、野鳥と共に暮らす環境を実現するなど、敷地を超えた「見えない関係性」をデザインの対象として意識している点に、業界としての大きな進化が見られ評価した。

ベルフォート北本

株式会社中央住宅 戸建分譲設計本部 設計一部

<概要>

従来の分譲地開発では家々の境界をフェンス等で区切るため、風通しや陽当たりが悪く、未利用地化や住人の交流希薄化につながる傾向がありました。本分譲地では、本来使われない敷地境界部分を活用して住宅の間に網目状の路地空間を設置し、住人同士、住人と地域パートナーのコミュニティ醸成の場を創出しました。路地空間は住人の安全な居場所の確保や三方を囲む公道へのアクセス性の向上にも寄与します。

路地空間には、街路樹や各棟の家庭菜園が点在し、連続する緑で居心地の良い空間となっています。造園業者による植栽剪定ワークショップや近隣農家による野菜マルシェと野菜の寄せ植え、北本市のNPO法人・観光協会と共同で開催する自然体験会を行い、住人のみならず地域を巻き込んだコミュニティ形成の仕組みを構築しました。



<審査員評価>

埼玉県北本市の北本駅から徒歩圏内、周辺環境は低層の住宅地が広がる敷地である。分譲住宅群として良好なコミュニティを形成するため、敷地境界に着目し、400mm～800mmずつ土地を掘出し、そこに地役権を設定したことで、共有の路地を創出した優れた計画である。共有の路地には、植栽、家庭菜園、ベンチを配し、植栽は近隣農家による寄せ植えワークショップを行うなど愛着を育むプログラムを計画し、平面的にもその路地に住宅のリビングを配置し、路地に生活が溢れ出し、交流の可能性を創出した素晴らしいエリアデザインである。

東京ストリームサイト

株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部

<概要>

水と緑の美しさで知られる東京都東久留米市にある分譲住宅で、敷地北側に河川を有しています。事業性を優先した配棟計画では河川境界に擁壁を建て、河川側に建物を詰めて配置しますが、河川からの景観は人工物が密集して圧迫感を与えてしまい川・川沿いの遊歩道に影をつくってしまいます。そこで、擁壁の建設をやめて、建設棟数を減らし、河川側にバッファとして緑化した遊歩道を設ける計画としました。

河川側は擁壁などの人工物を排除して緑化したため、水辺の緑との連続性が生まれ、遊歩道のおかげで水辺に影が落ちることなく、自然な景観が保たれました。歩行者が清流の眺めを楽しむ姿も見られます。



<審査員評価>

河川沿いであるという敷地条件を積極的に生かした分譲開発として高く評価した。北に面する河川側という通常は裏手として処理しがちな部分を、積極的に良くしようとしている。川を臨む側に降りていける動線は、テラスとともにそれぞれの家族に息の抜ける場所を提供している。住人同士のつながりも、この川への見晴らしが自然に促進するだろう。このような敷地内のデザインが、対岸の遊歩道から眺めた時にも、じっくりく風景を作り出している。地域への愛が実感できる街並みづくりである。

国産無垢再生パネル

株式会社中央住宅 マインドスクエア事業部

<概要>

越後杉の間伐材からベッドの床材を生産する際に生じる半端材を住宅用の壁パネル材としてアップサイクル。2017年の開発から、1,000戸を超える住宅に11,500枚以上を供給してきました。1枚のパネルで2.07キログラムのCO₂を固定するため(※)、これまで24トン、25メートルプール24杯分のCO₂の固定化に貢献したことになります。

デザイン面では、パネルの凹凸が織りなす複雑な陰影と、杉の芳香成分フィトンチッドの放出によるリラックス効果が森の木漏れ日の中にいるような感覚を生みます。芳香成分の放出と調湿効果を最大限発揮する製法を採用しました。

(※)林野庁「森林づくりによる二酸化炭素吸収量の算出方法」をもとに算出。

<審査員評価>

杉の端材をアップサイクルし、積極的にインテリアに取り入れた点に注目した。短尺の端材使用という前提で、材の厚みにバリエーションを持たせることで、小口面を多く露出させることで、視覚的効果としての陰影を生みつつ、独特の芳香を最大限に引き出す手法は新しい。



未来輪区 ～共助と共生を育む街～

中央グリーン開発株式会社

<概要>

防災意識を日常生活の中で高め(自助)、非常時には街全体で助け合える関係性を育み(共助)、ハードとソフト両面から環境問題に向き合う(共生)分譲住宅。

在宅避難を想定し、備蓄・非常用電源・生活用水・被害抑止の4視点で工夫を盛り込みました。また、リサイクル材や国産材、2段式宅配BOXなどを採用し、建築時や日常生活での環境負荷低減に取り組んでいます。

分譲地内の2つの共有地を中心に日常・非常時のどちらにも役立つフェーズフリーな場所とアイテムを街づくりに導入。防災アドバイザーやコミュニティファームを用いたワークショップを開催することで、いざという時に助け合える共助につながるコミュニティ醸成を図りました。



<審査員評価>

新造住宅地に地縁を育む手法を評価した。新造の建売住宅地では、見知らぬ世帯が同時に複数集まって集団的居住を始めることになるが、当然コミュニティは形成されていない。コミュニティが育まれていない社会は、公共サービスが停止した災害等の非日常時には相互支援等の協働活動を円滑に行うことができず、脆弱であると指摘される。本物件では住宅地内に共用の外部空間を設けシェアサイクル置き場や農地、宅配ボックス設置場等とすることでここを日常的な住民の居場所とし、加えて様々なワークショップも頻繁に催すことで、非日常時の活動の場と人的組織の形成を可能としている。

「ステイパス」のある風景

中央グリーン開発株式会社

<概要>

三方を道路に囲まれた15棟の分譲住宅。地役権を設定した共用の敷地に、通路としてだけの小路(フットパス)ではなく、Stay(滞在する)Path(小路)を計画。ステイパスを中心に四季折々の植栽を配置し、緑があふれる心地良い空間を創出しました。玄関アプローチを全棟ステイパスにつなげることで交流を促進。また、ステイパスによって隣棟間隔を取ることができ、採光と通風の確保にもつながりました。

室内の一部を緑豊かなステイパスに向けることで、開口部を通じてウチとソトを緩やかにつないでいます。ウッドデッキや縁側、テラス等をステイパスに面して配置し、家の中にいながらも住民同士の自然な交流が生まれるように工夫。ステイパスにはベンチを配置し、通路としてだけでなく、自然と足を止め、交流を生みやすい住環境をデザインしました。



<審査員評価>

住宅が個々の敷地の中で閉じてしまうのではなく、むしろ隣家と積極的に関わってコミュニティを形成していけるような住宅開発は、実はこれまでも数多く提案されてきた。この計画は、そのような中でも突出して「交流」に対して踏み込んだ提案をしている。敷地境界を自由に通り抜けられるだけでなく、誰でもが腰掛けることのできるベンチなどの設え、そして何よりも、各住戸の部屋が、その通り抜けに対して実に開放的に作られている。これならば、隣家との交流は、ごく自然に促されていくことだろう。空間の力を信じているこうした設計姿勢は、高く評価したい。

開発する全ての戸建て分譲地・入居者を対象としたコミュニティ支援プログラム

<概要>

住宅を販売して終わりではなく、開発するすべての分譲地を対象としてサステナブル・コミュニティ支援を行うプログラムです。入居時には、「初めましての交流会」で不安になりがちな新生活をサポート。入居後は、住民主体の自発的な交流を支援する制度「マチトモ！」の提供により、入居5年後、10年後も継続して住民コミュニティをサポートします。

2014年度の制度開始から10年、これまでに延べ1万世帯以上の交流をサポートしてきました。入居者交流会は当社分譲地では100%提供、住民主体の「マチトモ！」は218回のイベントが開催されており、夏祭りやハロウィンなど、毎年恒例で交流イベントを開催する分譲地もあります。参加者アンケートでは、「顔見知りが増えて安心」、「暮らしが楽しくなる/大人同士の交流も楽しい」、「いざという時に助け合える」等、安心面、楽しさ、コミュニティ本来の共助意識の芽生えについて肯定的な意見を多くいただくと共に、「マチトモ！制度があることで、交流イベントを開催しやすく助かる」といったご意見も多数いただいています。

中央グリーン開発株式会社



<審査員評価>

数あるコミュニティ支援プログラムの中において、参加人数とイベント回数の多さ、開催内容の多様さが群を抜いているイベント開催時の役割としては物品補助やアドバイスサポートなどであり、あくまでも住民が主体的に取り組み、将来的に自律共生的な場をつくることを後押しする。和太鼓やだんごづくりなど地域特性を活かした活動も多く、写真からも世代を超えた交流が息づいていることを感じられる。

育実(はぐくみ)の丘大宮

ポラスマイホームプラザ株式会社

<概要>

道路と敷地に2メートルの高低差がある土地に建つ分譲住宅。

道路際まで計画された擁壁が圧迫感を生み、緑の無い殺風景な街並みとなってしまうことを避けるため、本物件では、擁壁を道路から後退させ、住人がくつろぎ、挨拶を交わす視線高さにテラスを設けました。擁壁後退により圧迫感の軽減を図ると共に空を感じる面積を増やし、テラスによって立体的に緑化スペースを設けるデザインです。テラス部分には菜園スペースを設け、レモンやブルーベリーを植樹。ベンチも設置しているため、住民の交流場所にもなります。



<審査員評価>

住人同士の交流空間を、立体的につくり出したことが秀逸である。高さ2mを超える擁壁が必要であるという、通常であれば人と人とを分断してしまう条件を逆手に取り、住戸の前面に壇状の空間が設計された。これにより、中間域の「ガーデンテラス」でくつろぐ人と通行する人との間に関係性がつくられ、しかも視線の高さの違いが、適切な距離感を生んでいる。複数の高さにおける緑化が、街路視点からの緑被率も高める。分譲地開発において、立体方向のデザインに踏み出した意義は大きい。

南の台木造倉庫

ポラテック株式会社 木造建築事業部 特販部
株式会社ポラス暮らし科学研究所 構造G

<概要>

世界的にSDGSへの貢献が意識されるようになり、建築業界でも、木造化推進が地球温暖化防止や森林保護に大きく寄与すると考えられています。CO2排出量の1/3は建築関連が占めるともいわれる中、大気中のCO2を固定し、建築物の解体後も再利用可能である木造建築の可能性に注目しました。

南の台木造倉庫は、一般流通材を活用し、住宅用プレカット加工機で加工できる構造デザインとなっているため、戸建住宅に携わる地域工務店や職人の手でも施工可能な大規模木造物流倉庫のモデルプランです。さらに、オリジナル金物やブレース、木造トラスを採用しユニット化することで、搬入、施工手間を軽減し、工期短縮に成功しました。



<審査員評価>

木製トラスを一般流通材で作リ、それを金物と合わせることで、物流倉庫など大スパンの建築を実現する計画が素晴らしい。物流倉庫の施工に際して、金物と一般流通材を組み合わせることで、住宅用プレカット加工機だけで行える簡便なフローのデザインと、手加工を無くし、工場で組み立てられ、搬入時にも大型トラックを使わず、また現場加工などを減らした効率化のデザインで、12メートルもの大スパンを合理的に実現していることを評価したい。

令和最小限住宅4×4「造りすぎない家」

ポラテック株式会社 木造建築事業部(POHAUS)
株式会社ポラス暮らし科学研究所 デザインG

<概要>

世情やライフステージの変化等によって住まい方は変化します。将来の変化や成長に対応するため、日本家屋の田の字「四間×四間」の規格寸法にこだわり、各所の用途や機能を造りこみすぎずに、環境の変化に応じて余白空間を様々な可変できるデザインとしました。

コロナ禍の行動制限で味わった閉塞感により、自然との調和がより強く意識されるようになりました。本物件では、室内にいながら身近に癒しを感じられるよう、リビングに面して植栽を施した「外の間」を配置しています。

また、仕切り壁を極力排除し、家族と共に過ごす時間の価値を高めるよう工夫。玄関から続く通り土間はシューズインクローゼット、コート掛け、家事コーナー、パントリーを経てキッチンへと接続し、家事動線をシンプルにしています。また、寝室とランドリールームを近接させ、洗濯物干す、畳む、収納する動作をコンパクトに。家事を行う際のタイムパフォーマンスについても考慮した住宅です。



<審査員評価>

1マス8畳の正方形を単位とした、単純な「田の字」型平面の住宅を基本とし、これと前面道路との間に、同じ平面寸法を持つ庇下の半屋外空間を加えた形式である。タイトル通り、内部空間は大きいわけではないが間延びのない適切な寸法で設けられており、暮らしにフィットしている。不足する空間的余白や用途的余地は、付け加えられた半屋外空間が補完する。単純にテラスがただけではなく、室内と同モジュール(8畳正方形)であることで、より室内空間の延長として認識され、生活が滲み出しやすくなっている。またこのことにより、人の気配のする街並みが形成される点も評価した。

SPDスリム中間水切り

株式会社ポラス暮らし科学研究所 デザインG

ポラス株式会社 購買部・技術部、株式会社住宅資材センター
株式会社ハウゼコ

<概要>

異なる役割を担う水切りのデザイン要素を統一し、シーリングレスの雨仕舞を構築することで美しい佇まいを創出するスリムタイプの中間水切りです。オーバーハング水切りとの連結が可能で多様な意匠を実現するとともに、建物の耐久性・資産価値向上と街並の経年美化に寄与します。各役物を整備することで現場加工を削減し、生産性向上と均一な品質確保に貢献します。

従来、オーバーハング水切りと中間水切りの接点には隙間が生じており、シーリングに頼った雨仕舞となっていました。双方のデザイン要素を統一し「連結役物」を実装することで、設置面の異なる水切り接点における防水性能を確保しています。

また、本製品は、雨仕舞と防火性能を担保するインクルーシブな本体一体設計となっています。それに加え、連結役物をはじめとする各役物を設定することで、経験の少ない施工者でも技術差を生じさせずに容易に施工でき、省施工化と均一な品質確保、確実な性能担保を実現しています。



<審査員評価>

このような製品ではデザイン性と機能性のバランスが重要であり、機能を優先し過ぎることで意匠面が破綻する、またその逆も多く見受けられるが、本製品では施工性含めて両立させている点が評価できる。特に住戸ごとに違う条件・形状であるので、出隅・入隅やジョイントが重要になるが、ガルバリウム鋼板のそれらのパーツを一枚の板から折って成形することで、漏水リスクを軽減させ、構築している。また、商品と直接的なことではないが、責任一貫施工体制という仕組みもクライアントや所有者にとって安心を与えるという点で評価できる。